

洛友会会報

京都大学電気系専攻内
洛友会
〒615-8510
京都市西京区京都大学桂
075-383-7014
www.rakuyukai.org

中国、インド、ベトナム

関西支部長 田村和豊（昭45年卒）



洛友会のお手伝いは、約30年振りになります。振り返ると、大学を卒業してからもう40年になります。大学の卒業論文は坂井利之先生の研究室で、コンピューターによる音声分析だった事を思い出します。大学を出てから30数年間電力会社で働いていましたが、3年前にコンピューターシステムの開発・運用を生業とする会社に移りました。久し振りにITの世界に身を置いて、面白いなあと感じている昨今です。

ITビジネスに携わってから、東アジアの国々を訪れる機会が増えました。我が社の場合、システム開発業務の一部を中国・天津市で実施していますので、中国へは業務の確認・提携のあり方の話で足を運ばざるを得ません。インドへは、若手のシステムエンジニアを教育研修目的で、プネ市（ムンバイ近傍）へ派遣していますので、彼らの激励・インドのIT事情把握のため訪れる事になります。そしてベトナムは、アジアにおける第3のIT提携先と言われていますので、可能性調査のために訪れる機会が生じる訳です。

ITという切り口でこれらの国々を訪れているのですが、長い間の習性でどうしても電力エネルギー分野にも興味を持ってしまいます。原子力・再生可能エネルギーの開発計画はどうかとか、スマートグリッドは話題になっているかという点です。もともと各国の電力事情が悪くて停電が発生するようでは、ITビジネスに不安が生じますから、IT面からも電力エネルギー事情は知っておくべきテーマでもあります。それにしても、中国・インド・ASEAN諸国の数多の巨大石炭火力発電所計画を聞いていると、CO₂面はどう評価しているのだろうと不思議な気になります。

この3ヶ国で印象的だった項目を二、三述べてみたいと思います。中・印・ベトナム共に、千年を越える古い農業国家としての基盤並びに社会制度を保持しています。加えて、抑圧を受けた時代の記憶も忘れてはいません。中国人は日本・西欧列強への、インド人は英国への、ベトナム人は中国・仏国・米国への屈折した思いを持っている事を知りました。

リキシャ・自転車・通行人・動物が勝手に通行している有り様です。交通マナーは何ですかと聞くと、「勇気ある者優先です。」との返事があり、何となく納得してしまふ風景です。インドのタタグループが「ナノ」という20万円の乗用車を販売し始めていますが、あいうサイズと価格・機能の車は東アジアに合うように感じられてなりません。

こういふ社会でIT業界に職を得るといふ事、つまりプログラマー・システムエンジニアになるといふ事は、大変魅力的な事のように映ります。給料面では医者のように映るレベルが可能のようであり、新しい仕事だけに従来の身分制度・地域制度という因習を突破できる職業となっています。さらにインターネットの世界では、24時間最先端の情報に触れる事が可能であり、起業次第では過分の富を手に入れる事も容易です。

若者達が目の色を変えてITに取り組む事情も理解できます。新卒後一・二年度のIT技術者に夢を聞くといふ、3ヶ国共に、マイバイク・マイカー・マイマンションを望み、安定した高収入を得ながら世界をリードしたいと言います。「マイクロスソフト」のビル・ゲイツや「アップル」のステイブ・ジョブズのようにになりたいという声は何人かから出てきます。夢があるのだなあ、我社の新入社員との面接の際にこういう夢を語る若者はいたかなあと思ってしまう。

またIT技術者に占める女性の比率も日本とは相当な違いがあります。3ヶ国の中堅以上のIT企業では、システムエンジニアの女性比率は約3割と言われていますが、我が社の場合1割です。

我が社が5年程前に東アジアでのシステム開発業務実施に挑戦したのは、約1/4というシステムエンジニア人件費の安さの有効活用を図るためでした。あれから年月が経ち、各国の人件費は急速に上昇してきましたが、まだ東アジアでのシステム開発業務のメリットは薄れていません。マネージメントさえしっかりすれば期待のコスト削減は可能です。加えて、各国のIT技術レベルが向上し、部分的には我々と切磋琢磨する段階になってきました。ある意味で優秀なIT技術者を確保するという観点からも、東アジアでのシステム開発が重要になっていると言えます。国内と東アジアのITビジネスは統合的に考えるというのが当たり前になっています。

中国はこの30年間重厚長大産業の発展に力を注いできました。その反映として、金属・エネルギー・水等の貴重な資源を大量に利用

し、環境に厳しい影響を与える結果となりました。その評価を踏まえ、政府はITを中心とした軽薄短小産業に対し、ここ数年、支援を強化するようになってきました。IT産業の特徴といえる環境負荷の低さ、労働集約産業が持つ就業人数の多さ、さらにはインドのIT産業の成功例を勘案したものとされます。中国のIT企業経営者は今後の国内市場の発展に期待を示すようになっていきます。

東アジア各国が重視する産業を見てみると、日本の産業政策の参考となるだけでなく、東アジアの巨大市場の将来も予測できるよ

うに感じます。「改革開放」、「資本自由化」、「ドイモイ」と、国家の枠組みを改編して国富の強化を目指す中・印・ベトナムを見ているだけでも、東アジア30億人の国々と共栄していくという事は我々にとって大きなチャレンジだなあと感じる次第です。



名誉教授だより

時代と社会変遷の中で

坂井 利之

(昭22年卒 京都大学名誉教授)



現在は、日本での明治維新、昭和の第2次世界大戦での敗戦について、平和の中でありながら時代と社会の大変遷期にある。

数年・10数年前までの縦割りの科学技術分野が、今では多岐にわたり複合化・融合しているので、これからは研究開発に関わる人に限らず、多くの人々が2つの専門分野の知識を要望される状況になりつつある。そして、地球上の人々のその生涯を25年ごとに区切った学生期、がくしゅうき 家住期、かじゅうき 林住期、りんじゅうき 遊行期、ゆぎょうき のどの期に該当するどんな状態の人(生・老・病・死)にも、大きい課題と対応を求めていると思われる。それが何であり、何を語るうとしているのかを一緒に考えてみたいのである。

◆ユビキタス社会の到来

変遷を一言で言えば、コンピュータ機能(CPU)の変革と万能細胞化である。1946年産声を上げたコンピュータが、在来の機械と異なった万能性をもち、プログラムですべての機能を表現でき、しかもその構成ブロックが、ハード面とソフト面の両方で、性能・素材・サイズ・形態・使い易さ・価格において間断ない進化・発展を続けた。さらに同質の機材でシステムを構築できる電気通信や放送とICT技術として融合して、インターネットのインフラとなり、その稼働範囲は、時間軸と空間軸のそれぞれで、大小の両方向に極限値近くまで拡大している。

コンテンツであり、関与対象となるヒト・モノ・カネ・情報のすべてに、広義のIT技術が深く浸透した構造になっているので、このICTの作る環境は、生物界における万能細胞に該当し、いつでも、どこにでも、誰にもPCや携帯などで利用できる状況である。そこで、ユビキタス社会と呼ばれ、空気が水と同格の、人類に対する新しい環境因子となっている。

日本のネット網で適用・応用分野の前にプレフィックスとしてeのつく名詞(例としてeTax、eラーニング、e国政)は、一般(開

放的)インターネット上で特定専用ネットを構成しているネット網である。アドレスの国際管理機構で定められたIPv6になると、アドレスの長さが128ビットあるので、対象物の名付けは実用的に万物をすべて扱える。

ユビキタス社会では、IT技術のインフラ(通信・放送の管理・運営)とコンテンツ(作成と利用・アクセス権)を利用する立場からの一般的な常識を人々が持つのは、数学や英語が出来ることを誰にも必須のことであるとすると同等である。

従って、誰でも出来ること、考えることから脱却して、他の人出来ない創意、創出、創業をする能力を、学生さん(学生期)、企業や組織の各部署の人々(家住期と林住期初期)に求めることになる。一般論として、自分の分野とと思うトコロでこれを模索し、そのモデルを自己流に仮設し、試行錯誤で構築してゆく。それがうまく軌道に乗ると生きがいと思うようになり、独自性がある人と周囲から認められる存在となるだろう。

ユビキタス社会はグローバルであり、価値観も多様であって、すべての人々について、そのやり方や能力を評価し、受容できる分野や組織や人が、必ずどこかに存在し、接近してくるであろう。ユビキタ

ス社会という新しいグローバル環境は、今迄のように既存の範囲に限られない、全く未開拓の新分野であって、柔軟かつ広大なことを信じよう。

何かに興味を持ち、面白いこと、やってみようからやる心掛けと、努力、持続力が求められるのである。

◆行為・行動の着眼点

社会や、組織は一人で成り立っているのではなく、多くの人々の共同体である。極めて多岐な社会組織の中から自分にふさわしいものをどうすれば見出せるかが問題になる。この根本に迫るには、私は、ユビキタス社会の本質、実体を分析・把握することになるモデルを作り、シミュレーションを行って、関連のある事実や例題が探せればよいのではないかと思う。

ネット社会は、誰でも、どこへでもメールできるのであるから、製造業・サービス業・販売業は勿論、あらゆる所にコメントや苦情が届くこともあるだろう。また、メーカーも、社内で企画・設計さえしていればよいという訳ではなく、改良や性能のテストを行って、地域住民・設置場所・評価コメント・意見などを求めるなどの場面が多くなる。相互対話力の他に、当事

者・関係者の印象をよくする感性が大切となる。

日本では少子化社会、高齢化社会と言われているが、それは数年、数10年で対処できる事柄ではない。さらに、地球温暖化、環境問題、海外情勢などの問題もある。これらの関連性のあるモノ・コトをテーマとした長期的なプロジェクトの中で、自社の提供するシステムや素材の担当となる人もあろう。産・官・学・民どこにも役割があり、相互に関連性がある。技術的開発・製造・経営的判断、企画技術・現場での試行実験となると、地方自治体の指導、病院等現場の意向も大切である。

しかも個人の価値観、人権、安心の大切さと共に、公共的なルールや法律の制定・遵守、安全の確保の必要性は言うまでもない。そのどれかが欠けても、よい結果に繋がらないだけでなく、大きいリスクになることもある。

身体障害者・要介護者とそれらの人に対応する器具、機械の親身になった優しいシステム設計、そして安全・安価な開発、改良などと並んで、使用・行動空間に適応する、妥当な知的ソフトの設計、機器、ロボットの提供が望まれる。そのようなサービス業が成立し、広がってゆくのではなからうか。

◆大学の効能・友人の発見

私はここで、学生として学生期の終りの頃の方々、また家住期の初期で、現場の技術者・研究者の方々には、表面に現れていることだけを見るのではなく、もつと深く、心から見る目と心を養って欲しいと思う。

ペットに餌をやる。草木に水をやる。何も思わず、その生物の欲していること、言いたいことを観察し、鳴き声、動作、こちらの行った動作の後の状況をよくよく見て、何を訴えようとしているのかを把握する努力と心眼を持つて欲しい。

森羅万象、すべての心を感じ取って、その求めに対応する動作こそ、本当の動作なのである。人間同士の会話においても同じである。学生期、家住期の初期に、相手の言葉・態度から、その真意を探せるようにいつも心掛けていくと、だんだん訓練されてくるのである。

大学の授業で学んだことで、それが以後発達した状態に接した時に、新しいことであっても、馴染みがあつて難しいと思わないことが多い。この意義は大きい。また、同期でよく知っている友人が、ある方面の研究・開発・セールスで注目を浴びるようなことをした時に、「あのクンがやったのだから

自分にも出来る筈だ。やってみる」という気持と努力の力が生じてくることが大きい。同じ卒業期の人と同じグループの人から、同じような人物が輩出するのは極めて自然である。

自分のやりたいコト、興味のある分野では、その道の達人と一緒に人や先輩と、できれば起居を共にしたり、長期旅行などをやる機会が与えられれば好ましい。どんな時、どんな発言や行動をされるかを、よくよく観察するのである。

スポーツで自分の目指す人から、習いたい技術をススムとよく言うが、現場における観察からは、心掛け、知りたい極意が得られる。同様に、あこがれの人、その道の達人と同じ行動の場に居れる努力は、ネットワークから得られない情報、真の情報を得る道に通じるのではないかと思う。

◆あとがき

京都大学電気・情報を停年で退官して20年余。二度目の現役、私立大学で理工学部・大学院の創設・完了後に退職して10年余。停年退職してからのスタイルは、ノータ

イと帽子と心得ている。生・老は充分の時間をすぎ、病は学生時代からあつて、今では定期的に月1回薬もらい。大病院でも、2泊3日の人間ドック(2~3年毎)で

も見付からなかった未病が、ひよんなことから個人医と知り合い、その先生の初期施薬でより健康体になった。近隣に室内プールが開業したので泳ぎを学生期以来再開した。毎月3回以上、1回1000mを無理せず続けて、20年足らずで延730kmになる。

医院での時間待ちの時間、個人商人がよく持っている新書版の本や通帳が入るカバンの中に入れて、読んだのが五木寛之の「林住期」(幻冬舎文庫)。私はもう75才

の林住期も過ぎて遊任期。ここ1年位は高齢化の特徴で物覚えは悪く、難聴も月日と共に進展が自覚できる。そんな時に、幹事さんから洛友会報への執筆を頼まれた。もう何もかも引受けない、引受けられないと思つていたのに受けることになった。さて何を書くか、何を言いたいかを考えて書き出し4週間位になる。遊任期に入っているのに、学生期、家住期の人のようなことを考え、自分ではコレと思つてモデルを構築している。それは学生時代から、ずっと同じ地域に住み激動期に対処してきたからである。

地域・社会・経済・法律のことを素人ながら、広くそして自己流に考えていて、具体化の方策と過程も含まれている。「老人が何を言つてるか!」と一笑に付される

類ではあろう。

今どき、1・2年先など判らない。サブプライムローンのようなリスクの追跡・評価も難しいという専門の人々が多い。そんな中でも、20年・30年ものローンで固定か変動利率の何れかを決めないといけない一般の人々。

ユビキタス技術は便利であり、人間技では出来なかつた事は出来るし、個人が大変なコト(事業・ワザ)もやれて億万長者になつている人もいる。

プラスにIT技術を使い、学生期に本當のコトを言い合い、一緒に共同の活動もでき、話し相手になる友人を探せるのが、大学であり同窓生である。「以心伝心」でのコミュニケーションの友は、実空間で一様に勉強しているとき、師や先輩から学び取り、自分のものにすることも学生期、家住期の初期であると思う念が益々強くなるのである。



教室だより

受賞ニュース

最近の電気系教室関係者の各種受賞者をご紹介します。

◎ナノテクノロジー分野で世界的な業績を挙げた研究者に与えられる「江崎玲於奈賞」が電子工学専攻の野田進教授に贈られることが決まりました。授賞対象となった研究は、フォトニック結晶を用いて光子を長時間閉じこめる技術に関するものです。授賞式は11月の予定です。

◎平成21年度文部科学大臣賞(科学技術省)を電気系教室の野田進教授と松山隆司教授が4月14日受賞されました。対象となった研究はそれぞれ、「フォトニック結晶に関する独創的・先駆的研究」および「分散協調型画像理解の研究」です。

◎3-5年間で世界をリードし、世界のトップを目指す人と課題に総額2700億円を投じる最先端研究開発支援プログラム30課題に9月4日京都大学から山中伸弥教授とともに電子工学専攻の本恒暢教授が採択されました。対象となった研究課題名は「低炭素社会形成へ向けた炭化水素(SC)革新パワーエレクトロニクスの研究

開発」です。なお、政権が民主党に変わったためプログラム執行は現在凍結されています。

会員寄稿

庭に来る鳥

内藤 規雄 (昭40年卒・北海道支部)

関西で生れ育った私が、会社の仕事の関係で北海道に来て約20年、この地で仕事を終え、夏はゴルフ、冬は雪かきで自然を楽しんだり、翻弄されながら過ごしております。千歳空港の直ぐ近くの住宅団地でありながら、自然に接することが多く、夜にはキタキツネが庭を通り抜けていることもあります。

北海道に来た当初、支笏湖まで広がる原生林の中の林道を通り、山菜やキノコを採り、途中、キタキツネを始め、エゾシカ、フクロウなどにも出会い、これまでにない自然を堪能しました。春や秋には、近くのゴルフ場や林道にヒグマの出没も報道されました。一度自然のヒグマの姿を見てみたいものだと思っはいますが、まだ見たことがありません。かつて北海道育ちの人にそのことを話すと「とんでもない」と一蹴されたも

のです。どうも生まれてから北海道にいる人は、自然が当たり前なのか、あまり自然に興味を示さないようにみえます。

数年前、雀が自宅のガス台の上の換気口に巣を作り、気がつけば大量の糞屑を持ち込まれ、危険なため苦勞して掻き出しました。近年、旭川方面で冬場に雀の大量死が報道されるように、雀も冬の雪で食べるものもなく命がけのようなので、庭に小さな餌台を作りパン屑を置きました。すると20羽ぐらゐの団体でくるようになったので、更に大きめの餌台を作って設置し、市販の鳥の餌も置いてみると、雀以外の野鳥も来るようになりました。特に渡りの時期である、春、秋には色鮮やかな鳥も来て、家族を楽しませてくれます。ちなみに、我が家の排気口から追い出された雀かどうかわかりませんが、斜め向いのご近所の二階の換気口を巣にしたようです。

これまで、鳥といえば、大量の白鳥やカモ類、鷺やフクロウなどの大型の鳥しか気にしない状態で、車で30分の近くにラムサール条約に登録されたウトナイ湖がありながら、小鳥には無関心でした。庭に小鳥が来るようになって、ウトナイ湖のサンクチュアリに出かけてみて、小鳥の種類によって脂肉が餌になることを知りました。

そこで庭の餌台の柱に脂肉を捲いて餌にすると来る小鳥の種類が増えました。シジュウカラ類やアカゲラ、コムクドリなどが突いてきます。アカゲラはコツコツと音をたてつつついていますが脂肉を巻きつけた柱には全く傷つけてはならず、上手いものです。

これまでに来た鳥は、スズメを始めとして、シジュウカラ、ヒガラ、ヤマガラ、コガラ、シメ、カワラヒワ、アトリ、ウソ、ベニヒワ、ベニマシコ、アオジ、ヒレンジャク、アカゲラ、ツグミ、ハクセキレイ、カケス、コムクドリ、ヒヨドリ、キジバト、モズなどです。

シジュウカラ類は人懐っこく、餌をおねだりするかのごとく、屢々近づいてきたり、激しくさえずります。ヒヨドリは他の鳥が餌



餌台でシジュウカラと雀

台に近づくと追っかけ回してイジメるし、ハトは餌台を占拠してしまふし、カワラヒワは団体で来て、ガツガツ餌を食べてしまい、あっという間に餌が無くなってしまいます。ある種の人間模様の一部を見ています。

特に、鳥に集中しようという気はありませんが、ゴルフをしているとき、これまで気にもしていなかった小鳥が、多くいることに気づき、スコアは少しも良くなりませんが、ゴルフの楽しみ方の幅が少し広がったような気がします。

一番困るのは、脂肉を根こそぎ持っていくカラスで、今やカラスとの闘いになっています。餌台のまわりに小枝をつけたり、針金を巡らせたり、網を張ったり、また脂肉をタコ糸で縛りつけ、更に魚



庭に来たアカゲラ

を焼く金網を加工して囲っても、根こそぎ持つていかれる始末。ひどいときは、柱ごと持つていかれたこともありました。そばの電柱に止まり、馬鹿にしたように電線突き抜けています。

神武天皇東征のおり、先導したという八咫鳥を神様にしたから、今のカラスはいい気になっているのではと思われてなりません。イ

ソップ物語のキツネとカラスではカラスがキツネの知恵で食べ物をとられますが、ゴルフ場で、禁止されているのにキャディーが出没するキツネに食べ物を与えると、それを見ていたカラスが「ギャー、ギャー」いいながらキツネを襲うのを目撃したことがあります。強盗のようです。

また、北海道のゴルフは雪解け

の4月初め頃オープンですが、そのときキャディーの心付けの品物が準備されておらず、売店の人が「大福餅を持って行けば喜ばれる」というので、それを渡したところ、1ホール目のグリーンで、キャディーがカートを離れた直後、カラスに奪われてしまいました。キャディーはカートの奥のほうに入れておいたようですが、どこで見

平成21年度 懇話会 開催のご案内

在校生(学生会員)と卒業生(正会員)の親睦をはかり、在校生に先輩からのメッセージを伝えて激励するために、洛友会と電気系教室との共催で懇話会を毎年開催しています。今年度は左記のように開催されますので、是非ご参加下さるようご案内いたします。

記

日 時… 平成21年11月13日(金) 14時00分～19時30分
場 所… 吉田キャンパス電気総合館大講義室/懇親会…生協吉田食堂(旧教養部)

プログラム(予定)

- 14時00分 開会挨拶(電気電子工学科学科長 北野 正雄 教授)
 - 14時10分 「医療画像計測と診断情報の抽出」
画像データから高次元情報計測への挑戦と問題点
英保茂先生(京都大学名誉教授)
 - 15時10分 「ケータイとブロードバンドの融合に向けて」
安田豊氏(KDDI)
 - 16時10分 休憩
 - 16時30分 「情報家電とホームネットワーク」
安本吉雄氏(パナソニック)
 - 18時00分 懇親会(生協吉田食堂1F)
- (会費… 社会人… 3,000円、学生… 無料)

同釜会の活動紹介

1. 前田・大林スクールを引き継いだ同釜会の発足

昭和42年に、故大林辰蔵先生が京都大学から東京大学に移られたとき、大林先生が京都大学に在職されていた36-42年に前田/大林研究室に在籍していた教員・学生で何か会を作ろうという話を持ち上がり、「前田・大林スクール」が、平田康夫君(40、学部卒業年次、以下同様)と田島孝(40)が幹事で発足しました(途中から安田豊さん(48)が幹事として参加)。

以後、年一回地球電磁気学会が東京で開催される時期に懇親会を行っていましたが、両先生が亡くなられて解散となりました。

佐藤哲也さん(38)が、平成14

写真1…佐藤さん上京歓迎会での佐藤さん挨拶



いたのでしょうか。

我が家の近所を徘徊するカラスを追い払うのに鏡で太陽の光の反射を利用し、チラチラさせて嫌がらせをしています。最近では太陽の反射がなくても逃げますが、時折、様子を窺うのか、逆に嫌がらせをするつもりなのか庭の上をわざと低空飛行していきます。そして、まだ我々家族が起きる前の明け方を狙って来ているようです。

餌台を囲いすぎると、小鳥達が警戒し、また、観察しづらくなります。

私は電力関係の仕事ではなかったのですが、仕事上ではカラスとは無関係でした。カラス退治のいい手だてはないのでしょうか。

今年の北海道は雪が少ないとのことでしたが、千歳は空港が幾度か閉鎖になるほど雪が多く、これも温暖化のせいでしょうか。渡りの鳥達も餌のある雪の少ない方面に行ったようで、我が庭に来るのが例年より少ないようでした。この春、雪の重みのおかげで餌台も少々痛んできました。狭い庭ながら新設、修理などで餌台を3台にし、脂肉は1台だけにして、この秋の渡りの小鳥を待つことにしています。

年に、名古屋大学教授から地球シミュレータ所長として上京されたとき、間宮馨さん(42)の音頭で、旧前田・大林スクールのメンバーを中心に歓迎会が開催され(写真1)、その席上で、松本絃君(40)などの発案で、前田・大林スクールを再開し、関東・関西で対抗ゴルフをやる、ということになりました。会長は釜江尚彦さん(36)、会長代行が佐藤さん、幹事長が山本英雄さん(38)、幹事が私と安田さん、会の名前は、前田・大林研で同じ釜の飯を食ったということから「同釜会」として、発足しました。

会員にはゴルフをしない人もいるので、見学会と何か理由を見つけての懇親会をやることになりました。

2. 同釜会の運営とこれまでの主な活動

運営
会の性格を明確化しようという意見が出て、名称を「地球・宇宙物理現象処理新技術研究会(略称:新技術研究会、愛称:同釜会)」、会員の種類を、正会員(上記、旧前田・大林スクールのメンバー)、会友(京都大学卒業生で、正会員3名の推薦があり同釜会会長から了承された人)とすること、年会費を徴収せず、行事ごとに集める

会費の残金を会の運営費とし、主として趣味の会の行事費用などを支援すること、など、会則を決めました。

運営費として佐藤さん歓迎会の残金約4万円を原資として引き継ぎ、懇親会等で残金が出るようにして、原資の額を維持するようにしています。

会員は、会の活動を進めていく段階で、36-42年の間に前田・大林研にいたということが分かって参加する人や、42年度以降の前田研関係者で正会員の推薦と本人の参加希望で入会する人、などが増えて、現在、関東圏:45名、関西圏ほか:17名になっています。

連絡等は、電子メールのみで行っているため、同釜会の会員資格のある方で同釜会通信などのお知らせ配信を希望される方、メールアドレスが変更になった方は、速やかに(新しい)メールアドレスを幹事(tajima@cybersoken.com)までご連絡ください。

会員の伝手で、これまで、地球シミュレータ、NHK技研(以上平成14年)、宇宙研(15年)、KD DI研、極地研(16年)、リニアモーターカー試乗(17年)、宇宙航空研究開発機構(JAXA、20年)、国会図書館(21年)の見学を行いました。

山梨でのリニアモーターカー試乗では、一般の抽選ではほとんど当たらないとのこと、京都からも3名の参加者があり、一瞬ですが時速500kmの乗り心地を体験できました。

JAXAでは、温暖化ガス観測衛星(GOSAT)、宇宙ステーション輸送機(HTV)、きぼう曝露部が勢揃いしていた時で、またとない時期の見学ができました。

国立国会図書館では、長尾館長の招待のような形の見学にしてもらい(写真2)、時間帯、人数、

写真2:長尾館長を囲んだ同釜会見学者



見学場所で広報の方からいろいろ配慮をいただき、めつたに見られない場所まで見ることができました。

同釜会見学会の特徴のひとつに、見学時や後の懇親会で質問・コメントがいろいろ出ることがあります。例えば、リニアモーターカー試乗会では、事前の申し込み時に「今回の試乗の目的:JR東海の最先端技術に触れて、公共交通機関の技術的な将来動向について見識を深めるとともに、新技術への意見を述べる。」としましたが、主催者から質疑はなし、とされました。後の懇親会で今回の見学では「リニアの浮上の原理」が理解できないとの話がでて、その時の案内役の竹井大輔さん(37)から、後日「ガイドウェイには8の字の形をした浮上案内コイルも設置されている。車両の超電導磁石が高速で通過すると両側の浮上案内コイルに電気が流れ電磁石となり、車両を押し上げる力(反発力)と引き上げる力(吸引力)が発生し、浮上する。従って、この方式では停止中(あるいは100km/h位まで)は浮上でできないことになる。」との説明がされました。

会員の伝手で、見学会はほぼつ頭打ちになってきており、新規の見学先を開拓中です。

現在、趣味の会としては、発足以来のゴルフの会(世話人:山本さん、安井敏雄さん(41)、石黒公君(40))のほか、平成20年から発足したハイキングの会(世話人:釜江さん)があります。

ゴルフの会は平成14年から毎年1回、練習会、懇親会、ゴルフコンペをセットにして開催しています。当初、関東と関西とで隔年開催の予定でしたが、ゴルフをやる人は関東の方が圧倒的に多く、毎回関東開催になっています。

これまでゴルフコンペは7回開催され、参加者は延べて19名(同釜会でゴルフをする方は約30名)、このうち4名が毎回、3名が6回、4回、3回、1回、2名が5回、1名が2回、の参加となっていました。今年10月に開催し、3、4名の初参加で5組のコンペができることを期待しています。

そのほか、ミニ同釜会と称して、1、2組で不定期にゴルフを楽しんでいます。

最近、平田君、佐藤さんが関西在住になったため、同釜会関西でもゴルフが開催されるのでは、と期待しています。

ハイキングの会は、昨年、蓼科方面の山から始まり、当面は富士山が見える山を中心に実施しています。そのほかの活動としては、会員

のおめでたいことなどあれば、それを口実に懇親会を開催してしま

これまで、同釜会設立1周年記念&桜井邦朋先生を囲む会、3周年記念&太田忠一さん(36)お帰りなさい会、平田康夫君壮行会、松本絃君紫綬褒章受章・京大総長内定お祝いの会、などを行い、会員相互の懇親も深めています。

以上述べた会合のほか、会員に関連するニュースがあれば、不定期に「同釜会通信」を発信して、会員相互の情報共有を図っています。

3. 洛友会における同釜会の位置づけ

同釜会の会員は、ほとんどが洛友会会員の資格のある人です。

洛友会東京支部では、同釜会会員から、松本慎二君(40)が3年前支部長になったあと、向井利典さん(41)、間宮さんと3代連続して支部長を出し、来年はまた、同釜会から井上英也さん(44)が支部長の予定です。

同釜会会員の木村磐根先生が、洛友会本部で幹事長をされており、今年の国会図書館見学会では、洛友会会長の長尾館長にはお世話になりました。

このような状況を考え、釜江同釜会会長の方から、同釜会会員で

洛友会の資格のある方で洛友会会費未納の方は会費を納める会員になろう、という呼びかけを行いました。

洛友会では、会費の納入率向上という課題があげられています。

一般に、同期の方とは卒業後も何らかのつきあいがありますが、縦のつきあいはそれほどありません。

同釜会は、36-42年の同じ研究室時代の集まりが中心ですが、徐々に縦方向にも広がっており、この会で知り合うことにより、洛友会の行事や他の会合等でも、その分知り合いが多くなり、交流の範囲が広がります。洛友会の中で、このような集まりが顕在化して活発化すれば、相乗効果として洛友会の活性化にもつながると思われ

ます。関東地区では、9月に「京都大学東京オフィス」が開設されました。同釜会もこの施設を積極的に活用していこうと考えています。

皆さんも洛友会の行事に積極的に参加して、この中で何らかの引っかかりを見つけて、同じ京都大学電気系を卒業したものとして、洛友会の中で交流の場を見つけて、これからの生活をより豊かにしていただければ、幸いです。

同釜会の活動が、洛友会ひいては京都大学関係者のコミュニケーション

ション活性化の一助となれば、と思い、一端を紹介しました。同釜会幹事 田島 孝(昭40卒)

嵐がもたらした小さな変化

山本 武司 (平4年卒・中国支部)

朝ぎりぎりまで寝て、起きたら洗顔、着替、朝食と、出勤までの30分程度のプロセスにスキはなく、家族とゆっくり話す余裕もない。また、予定のない休日の朝は、二度寝、三度寝を繰り返して、あとで休日の時間を浪費したことに若干の後悔を覚える。これまでの自分の典型的な朝のスタイルである。ところが、長年続けてきたこのスタイルが、嵐により変わりはじめています。

嵐は2ヶ月前に我が家へやってきたボストンテリアという種類の犬で、この原稿を書いている時点で生後4ヶ月になる。人間で言えば6才ぐらいであろうか。ボストンテリアは室内犬で、米国のボストンで、ブルドッグとイングリッシュ・テリアを掛け合わせて生まれたといわれており、黒地に白の模様タキシードを着たような印象から「小さなアメリカ紳士」と呼ばれている。簡単に言えば「のらくろ」に似ているが、モデルと

いうわけではないようである。きっかけは、ペットを飼育してもよい住居に引越して、子供たちが「犬飼いたい〜」を連発しはじめた、というよくある話である。もともと自分は特に犬好きとか、動物好きというわけでもなく、いつかは犬を飼いたいと思っていたわけでもない。どちらかといえば、犬を室内で飼うことには抵抗があった方である。しかし、子供たちの要求を否定するほどの理由もなく、週末にペットショップをまわっているうちに、たまたまボストンテリアという犬種を知り、興味をひかれた。チワワやプードル、ダックスなどの一般的に人気のある犬種を考えていた家族からは、「なんで? (こんなぶさいくな犬を)」とはじめは全く理解を得られなかった。そうこうしているうちにブリーダーショップのホームページでボストンテリアの子犬が4匹生まれたとの情報を見つけ



た。電話してみると、すでに3匹は飼い主が決まったとのことで、急ぎ残りの1匹を見に行つた。ぶさいくと言っていた家族も、その愛嬌を認めはじめており、今決めなければ当分は手に入らないというところもあって、その場で飼うことが決まったのである。

そして3週間後、嵐は我が家へやってきた。経験のある方はお分かりと思うが、もつとも悩まされているのが便の始末である。まだ室内ではサークルに入れており、たいていその中のトイレで排便するので、すぐに片付ければ問題は無いが、ちよつと目を離したすきや、留守をした時などには自分の便を踏んでしまい、その足で歩いてサークル内やベッドを汚してしまう。硬い便(良い状態)であれば踏んでもあまり影響はないが、便が軟らかいと被害は甚大である。小さいうちは排便の回数も多い。嵐は軟便のことが多いため、我が家では一日に何度もサークル内の掃除や、ベッドなどの洗濯に追われることになる。

そんな中驚いたのが、子供の行動の変化である。今までは、少しでも臭いところや汚いものは極端に嫌がっていたのに、自ら進んで便の後始末をするではないか。ペットを飼うことが子供の情操教育になるということをよく耳にする

が、世話をしなければならぬ相
手に対する責任感のようなもの
が、子供らに芽生え始めたので
ないかと実感させられた。

一方、自分おきている変化が
早起きである。嵐は朝5時前後に
起きるが、ほったらかしておく
少々うるさいので、その相手を
するのは自分の役割である。そ
れは出勤で家を出る2時間以上
前に起きたり、休日にも早起
きしたり、今までの自分では全
く考えられない新しい朝のスタ
イルが始まった。早起きは三
文の徳との格言どおりである
ことは言うまでもないが、意
図的かどうかは別として、自
分が苦手としていた朝を克服
したということが何よりも気
分がいい。

大学入学、就職、結婚、子
供の誕生等の変化がおきると、
それまでの生活スタイルが大
なり小なり変わる。今回犬を
飼いだめたことは、自分や家
族にとってそんな変化のひと
つとなった。早起きの習慣が
これからは寒くなっても続く
かどうかは自信がないが、嵐
もたらしめた変化は、今のと
ころ家族に良い影響をもたらし
てくれている。嵐は今後も我が
家に多くを教える。与えてく
れること、思うが、そんな生
活を楽しんでいきたい。

地球二周の船旅

松本 慎二

(昭40年卒・東京支部)

この一年間に、念願だった
船の旅を2回しました。まず、
2008年1月から108日間で
南半球(横浜―香港―ベトナム―
シンガポール―セイシェル―南
アフリカ―ナミビア―ブラジ
ル―ゼンチン―南極大陸―パ
ラダイス湾―チリ―イースター
島―ニュージーランド―オース
トラリア―パウエル横浜)を一
周し、さらに今年4月から112
日間で北半球(横浜―アモイ―
シンガポール―ヨルダン―ス
エズ運河―エジプト―ギリシ
ヤ―イタリア―スペイン―フ
ランス―スウェーデン―ロシア―
フィンランド―デンマーク―ノ
ルウェー―北極圏―アイスラ
ンド―ニューヨーク―ベネズ
エラ―パナマ運河―コスタリ
カ―メキシコ―バンクーバー―
横浜)を一周しました。

経験して分かった船旅のメリ
ットは、なによりも体力的に精
神的に楽なことです。船酔いや
疲れ、体調不良を感じたらいつ
でも自分専用の部屋で休めま
す。荷物は自宅で宅配業者に
引き渡せば自室まで運び込ん
でくれるし、帰国時にも税関
を通る時以外は自ら運搬する
ことはありません。船内に数カ所

あるバーや居酒屋で閉店時間
まで飲んで、タクシーを呼ぶ
必要もなく、数分歩けばベッ
ドに辿り着けます。

また、旅行期間の9割を占
める洋上航海中は様々な事
件に巻き込まれる心配は少
なく、航空機に比べると事故
に対する恐怖感も小さい。船
内での人間関係が煩わしく
なったり自分の城に籠れる
し、時差ボケにも悩まされま
せん。実際、船客の中には歩
行に杖が要る高齢の方や車
椅子の方が少なくありません。
船の旅行ならゆつくりと、安
全にしかも快適に世界の果
まで運んでくれるからでしょ
う。

帰国後、私の体験話を聞いた
人はほぼ全員、「退屈しなかつ
た?」とまず尋ねます。正直な
ところ、私は退屈とは無縁で
した。退屈どころか、自分の
好奇心をしつかりとコント
ロールしないと毎日が慌ただ
しく時間が過ぎ去ってしまう
ほど船上には興味あることが
いっぱいあります。

船の催しと言えば誰もがイ
メージするダンスパーティー
は、私が乗った船の場合、横
濱出航直後と帰港直前及び中
間に開催される3回のフォー
マルディナーの際に開かれ
るだけで意外と少ないので
すが、その他に寄港地から立
ち替わり乗船してくる日本
人や現地人の

ケープタウンの
テーブルマウンテンを背に船友と



講師やエンターティナーによ
る、環境、格差や平和などの
最近のトピックや訪問地に
関係する様々なテーマの講
演会、あるいは民族豊かな音
楽会やダンスショー、航海中
のほぼ全期間にわたり開講
される外国人教師による有
料と無料の英語やスペイン語
の語学研修、赤道祭りや運
動会、ファッションショー、
お笑い大会、カラオケ大会、
盆踊り、大ホールでの週1回
程度の和・洋映画の上映、部
屋のテレビで毎日2本の映
画の放映、ほぼ毎朝の落語
ビデオ鑑賞会など盛り沢山
です。

このような旅行会社が用意
したものは別に、乗客自らが
企画実行する催しが早朝から
深夜まで毎日20件以上あり
ます。特に社交ダンスは教
える人も習う人も多く、日
に3〜5回の講習会が開か
れます。健康法も大変人気
が高く、早朝からラジオ体操
やヨガ、太極拳、気功、指
圧、ボクササイズなどが繰
り広げられます。さらに、オ
カリナ、ギター、二胡、三
線などの楽器講習会、手芸
や編み物、書道、フラダン
ス、シャンソンコンサート、
体験を本にするための講習
会、お金の儲け方講座、麻
雀、囲碁、将棋、トランプ
・・・とても全部を挙げられ
ません。これらを企画する
方の多くはそれを楽しみに
繰り返して乗船するリピー
ターです。この他、ジム、プ
ール、スポーツデッキでの運
動も盛んです。また、船内新
聞発行のお手伝いや、船内
テレビ放送用コンテンツの
制作や船内で使用する音響
機器の設置支援などのボラ
ンティア活動に汗を流す乗
客もいます。

私が乗船したピースボートの
場合、部屋の種類が一人部屋
から4人部屋まで、バルコ
ニー付きから窓なしまでとバ
リエティに富んでいて、船
旅価格は最低148万円から
最高350万円と他の会社と
比べると格段に安いという
のが大変魅力的でした。

昨年乗った船は総トン数3
・1万、今年は3・9万で、
いずれも乗客定員は約1500
名で、約



南極大陸を背景に
アピールする若者達

50年前に欧州で建造され、欧米航路などで活躍した当時の豪華客船で、老貴婦人の風格が漂います。乗客はほぼ全員が日本人（幼児から90歳超）で南回りの時は約千名、北回りは500名、その内6割以上が女性、また親子、夫婦、兄弟などの組み合わせは少なく10%もない様子、また55歳以上が6、7割で20代、30代が2、3割。学生や退職中のような方も見受けられますが、退職者が圧倒的に多い。余談ですが、船の中で知り合って婚約や結婚に至るケースが2件ありました。堅苦しいドレスコードはなく、誕生会への出席など特別の場合を除いてカジュアルな服で過ごせます。食事は、ほぼ日本で食べるような和洋エスニック料理がい

ろいろ出てきて、味もまずまずです。した。

2回の船旅で約11万キロを航海し、世界の主だった海洋・大陸・運河を巡り、延べ34カ国40都市21箇所の世界遺産を訪れました。

寄港地では1、2泊することもあります。早朝到着深夜出発が多いのでその地の観光には物足りません。もっとじっくり観光したい人は一度下船して次の寄港地で合流することになります。そのような内陸部の観光地を巡るコースや寄港地近辺を観光するコースなどいろいろなおツアーが用意されていて、それに参加する人が大勢いました。私はほとんどの寄港地でそうしたツアーには参加せず、親しくなった人達と気ままに行動しましたが、内容と費用の点では大いに満足した滞在となりました。

訪問地の観光もさることながら、刻々と変わる海と空の変化や星座を観察し、鯨など海の生き物との遭遇を喜び、フィヨルドなどの陸の景色の遠望を楽しみながら多様な人達と交流することこそが船旅でしか味わえない醍醐味ではないかと思えました。そして、しがらみのない自由な空間で、今までの人生とは異なる時間の流れを味わい、100%自分の思う通りに生活しながら、この先の人生を展望し、その準備と予行演習がで

きたことが私にとって一番大きな収穫でした。

環境に優しい家作り (その4)

蘭田 徹弥

(昭51年卒・九州支部)

これまで、自然エネルギー・自然素材の利用や家の構造的な特徴について述べてきました。今回、最終章として、実際に住んでみてのエコな家の効用について記述します。

・電気の使用

OMソーラーシステムは、夏でも夜になり外気温が室内温より低くなれば、自動的に涼しい空気を各部屋の中に送り込んでくれます。各部屋の床の通風口から出てくるひんやりとした風でその機能が確認できます。そのおかげで、エアコンは昨年の夏はお客様がおいでになった時に二回使っただけでしたし、この夏は一回も使わずに済みました。さすがに二階は暑く、一階での就寝になりましたが、吹き抜け天井に設置のシーリングファンが床からの涼しい風とあいまって、寝苦しいはずの夏を非常に心地よいものにしてくれました。

戸建と集合住宅の場合で電気の使い方を直接比較するのは少し無

電気使用量モニター



モニターを設置してありますが、そこに目標を設定しています。初期目標は約10kWh/日。これは標準家庭の使用量で、月では約3000kWhになり、1kWhがおよそ20円ですので、月に約六千円の従量料金と基本料が一〇Aにつき約三百円、四〇Aで千二百円、合計約七千円強となります。

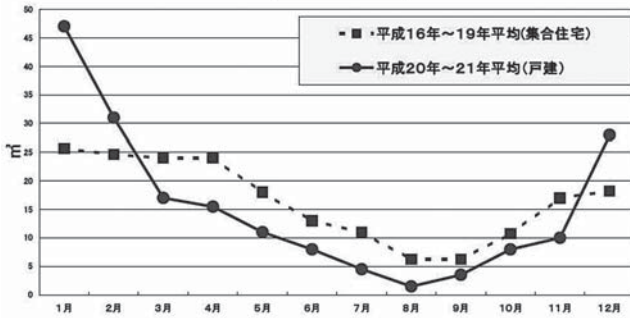
この目標を現在は何とかクリアしていますが、そのために我が家では、まず待機電力を無くすことを心がけています。こまめにおおもとの電源を切るか、スイッチ付きのテーブルタップを利用する。冷蔵庫は弱冷蔵の設定です。一階のトイレには、自動的に蓋が開き水が流れる機能がありますが、これらは来客があったときだけ利用します。さらに分電盤においては普段使わないコンセントはスイッチを切っています。これらの活動の成果がモニターに出てくるので、やりがいがあります。

理があるでしょうが、グラフにあるように、同じ家族構成での集合住宅での年間平均と、引越し後の戸建の毎月の電気使用量を比較してみると、その効果がよく分かります。冬季は、ガスによるOMソーラーシステムの補助暖房に加えて、電気ヒーターを局所的に頻繁に使いますので、かなりの使用量になりますが、夏季に逆転現象が見られます。集合住宅では、盛夏ではコンクリートが夜に放熱しますので、エアコンの使用量がうなぎ上りになります。木造という構造体とOMソーラーシステムの働きによって、暑い夏を自然に近い形で過ごせるというのは、すばらしいことだと思います。

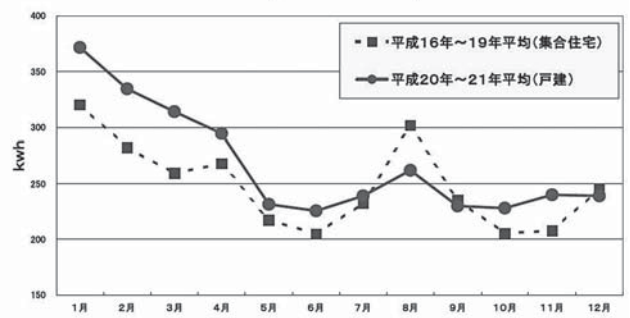
OMソーラーシステムに付随して、日々の電気使用量が見えるモ

電気使用量モニターでは、瞬間の電気使用量が現在電力という数字で表現されます。これを活用することにより、電気の契約電力を真の値に近づけることができます。我が家には、IHコンロ、電子レンジ、エアコン、電気ヒーター等の、電気を大量に消費する家電製品が数多くありますが、これらを一齐に使用することはありませ

ガス使用量



電気使用量



ん。もし同時に使う場合、モニターを見ておけば、そのときの瞬間電力値が分かりますので、危ないと思つたらコントローラできます。我が家も当初六〇Aという結構大きな契約電力にしてみました。モニターの数値を分析した結果、四〇Aへ落としました。これにより基本料金が大幅に下がりました。

・ガスの使用

我が家ではOMソーラーシステムの床暖房機能により、太陽が出ておればその熱を取り込んで暖かいのですが、雨や曇りのとき、補助暖房としてガスを使用します。で、冬季はかなりのガスを消費します。しかし、冬季以外は同システムの湯取り機能により、ガス使用がかなり抑えられます。グラフにあるように、我が家の集合住宅での四年間平均と現在の戸建の毎月のガス使用量を比較してみると、シャワー中心の夏季に極端に使用量が減っているのが分かります。

引越して二回目の冬を迎えた昨季、補助暖房とバス・給湯を使った場合のガス使用量を毎日のようにガスメーターでチェックしました。その結果、いろいろな事が分かりました。補助暖房を使うと、一時間で室温が約一度上昇し、約〇・八mのガスを消費します。と

いうことは朝方に必要な設定温度に上げたい場合、朝の温度を予測して補助暖房のタイマー機能を使ってその数時間前にセットしておけばいいのです。やみくもにガスを消費することは必要ありません。給湯も、新たにお湯を張るよりも残り湯があればそれを使った方がガス使用量が減ります。水道管の水の温度よりも残り湯の温度の方が高いからです。

・終わりに

これまで家作りとはなかなか縁の無かった自分ですが、この年になって家とはどうあるべきかを思いつきり勉強する機会を与えられ、幸せだと思っています。前にも述べたように、家そのものが自分たちのライフスタイルです。それも今後数十年を視野にいれて設計する必要があります。最初から明確なテーマを設定していたわけではないのですが、家作りが進むうちに、三つのテーマが我が家にあつたことに気付きました。

①自然との共生

OMソーラーシステムを中心とした、自然をできるだけ利用した住まいづくりです。太陽熱、太陽光、雨水を利用して生活の中にかかっています。最初の夏はお客様がおいでになったとき以外は、クーラーをつけずに過ごしました。汗がだらだらと出て、本も読めない、眠れないようではそれはやせ我慢ですが、扇風機で事足りる、あるいは夜の涼しい空気をOMソーラーシステムが外から取り込んでくれて、快適に過ごせる状況だったので、クーラーは不要でした。

②おしゃれ&シンプル

機能性、あるいは経済性を優先して生活環境と直接関わらない部分、たとえば家の外観とかをシンプルにしたこと、内装については木造無垢をうまく生かして女性が好みそうなおしゃれなデザインに仕上げたことが上げられます。収納を全ての部屋に確保してガラタを取め、将来的にも家の中をこちゃこちゃさせないというのも、このテーマに含まれるでしょう。一般的には収納は床面積の十五%以内のようですが、我が家では二〇%を越えています。

③情報発信

私のこれまでの仕事の経験を生かして、多くの情報がスムーズに発信できるように環境を整えたことです。お客様がおいでになったとき、書斎に設置のサーバーにアクセスしてリビングでいろいろなプレゼンができるようになっていきます。また、モデルハウスとして多くの皆様方に環境共生の家の良さを知ってもらおう運動もこのテーマの範疇でしょう。今後いろいろな場面で、自然と共生する我が

家の情報を発信していきたいと思っています。

同窓会だより

獅子の会 (昭和44年卒) 卒業40周年同窓会

我々昭和44年に電気・電子・電IIを卒業した164名の同窓会は、44(しし)を振って「獅子の会」という。今年卒業後丁度40年目の節目の年を迎えることになった。年齢は全員還暦を少し越えたところで、62〜64歳といったところ(浪人とか、留年とか、海外無銭旅行による休学とか、それに脛に傷の事情があり年齢に数歳のバラツキがある)。

どこの同窓会も同じで、人は60歳が近くなるあたりから、だんだん人恋しくなってくるもので、この会も最近では毎年東京と京都で交互に開催しており、今年はその番となった。開催日は真夏の太陽が降り注ぐ7月18日(土)の午後。集合場所は、2年前が吉田キャンパスの時計台下ホールだったので、今回は桂キャンパスの桂モニュメント(時計塔)の下。14名が参加。まず集合した皆さんは、大型スクリーンに写し出された

「歓迎…獅子の会の皆様」「祝…卒業40周年記念」のディスプレイを見て感激。初めに、事務管理棟の3階にある大広間に案内され、工学研究科電気工学専攻の教授をしている同期の大澤君から桂キャンパス全体の説明を受け、その後、工学研究科電気系の研究室（超高圧実験施設など）を見学。歴代の電気系教室名誉教授の先生方の写真を前にして、当時単位を取るのに四苦八苦したためか、全員一同に一瞬緊張が走る。ここでは、長尾先生（元総長）は当時講師をしておられたこと、松本先生（現総長）も当時確か助手をしておられたことなど、恩師の先生方の思い出話に花が咲いた。

ど、大いに盛り上がった。昔は天下国家や国の将来を論じ合った我々も、この年齢になると、仕事の話もそこそこに、悠々自適の生活の話、孫が可愛くて仕方ない話などのほか、病氣の話、奥さんとの仲がしつくり行かない話、親の介護の話、老後の生き甲斐の話、子供がなかなか結婚しない話など、冴えない話も多く、話のレパートリーは多岐に亘った。

2次会はカラオケ。「琵琶湖周航」、「知床旅情」、「北上夜曲」に始まり、「お座敷小唄」まで、古い歌がドンドン出る。極めつきは、幹事が真面目な橋本／大澤の両君らしく、最後は「京都大学学歌」斉唱で締めくくり。さすがにカラオケのメニューにないため全員でアカペラ。「九重に〜」、花ぞ匂える〜、千年の〜」が洛西の夜空に響いたのでした。



次の日は、朝湯と朝食の後、ゴルフに行く人（4人）、観光地に行く人、吉田界限に行く人、さらには、昔の下宿先を訪ね、当時憧れた近所のメッチェン（40年も経っており、もうお婆ちゃん？）に会いに行く人まで、40年前の思い出を胸に、それぞれ三々五々に散会した。

今回の出席者は、敬称略で、浅尾、浅谷、阿部、伊藤（高明）、上田（稔）、大澤、越智、瀬川、関本、瀬戸、田中（俊秀）、佃井、仲村（康之亮）、橋本、細田、牧野（義）、真木、益尾、松木、松島、松本、森（宣彦）、吉田（昌春）の計23名。下に掲げた集合写真（23名中3名は温泉入浴中）の通り、外観（髪の毛と体型）は40年前とすっかり変わってしまったが、中味は全然変わっていない。いや、成長していないと言うべきか。

（昭45年卒 益尾和彦 記）



本部だより

「林宗明先生を偲ぶ会」開催報告



平成21年4月29日に他界された故林宗明先生を偲ぶ会を同年9月12日、京都大学百周年時計台記念館を会場として、電気工学科林研究室同窓会の主催で開催いたしました。名誉教授の先生方を含む洛友会の皆様方をはじめとして、林先生と親交を結んでこられた多くの方々のご出席を賜りました。洛友会報の紙面をお借りしてご出席、ご協力頂きました皆様に厚くお礼申し上げますとともに、本偲ぶ会について以下に報告させていただきます。

まず、故林先生のご略歴を紹介させていただきます。林先生は、昭和2年7月26日に宮崎県にてお生まれになり、第二鹿児島中学校、第七高等学校を経て京都大学工学部電気工学科にご入学、昭和27年に京都大学をご卒業されました。

卒業後は一旦(株)住友電気工業に勤められました。昭和30年に京都大学へ転職され、大久保研究室の助手となられました。その後、講師、助教授を経て、大久保教授の退官後、発送配電研究室を引き継がれ、昭和42年に教授となられました。以後、平成3年に定年退官されるまで電力系統の潮流問題や安定度問題、さらには系統絶縁問題に精力的に取り組み、研究を指導されました。そして、これらの分野において多くの人材を輩出されました。特筆すべきこととして、先生は、東京大学の河村教授、名古屋大学の堀井教授、京都大学の上之園教授、九州大学の赤崎教授らと協同で文部省の総合研究を組織され、超々高圧送電であるUHV送電の絶縁設計と環境問題との調和に関する基礎的な研究をおこなうとともに、ポストUHV送電に関する新課題の調査・研究も推し進められました。これらの研究により、昭和61年に電気学会の電力賞を受賞されました。

林先生はまた、電気学会関西支部評議員、関西支部長、放電および電力技術委員会委員をはじめ、国際AI電力応用会議論文委員長など数多くの要職に就かれ、これらの長年の教育・研究上のご功績により、このたび正四位・瑞宝中綬章を受けられました。

さて、9月12日の林宗明先生を偲ぶ会におきましては、前述の洛友会関係の皆様方、とりわけ昭和27年ご卒業の同期会である「帰洛会」の方々、ご遺族、門下生を含めて約150名の方々のご参加を頂き、和やかに、かつ滞りなく開催することができました。



偲ぶ会では、林先生のご遺影を飾った祭壇において、参加者一人ひとりが献花しました。献花に続く立食形式の偲ぶ会では、門下生を代表した伊佐弘先生の開会の辞に続き、帰洛会を代表して東松孝臣様からご挨拶をいただきました。会場には先生のご業績を偲ぶ

勲章や賞状ならびに論文・書籍・資料を展示しました。各テーブルでは先生のご業績とともに、先生のお人柄などについての話題が尽きず、和やかに会が進められました。最後に、ご遺族のご挨拶をもって散会いたしました。

以上、林宗明先生を偲ぶ会につきましてご参加ならびにご協力いただきました皆様に対しまして、ご遺族ともども心からお礼を申し上げます。

林 宗明先生を偲ぶ会幹事
山本 修(電気工学専攻 講師)

本部総会報告

平成21年度本部総会は6月21日(日)、東京の学士会館において、関西支部総会に引き続いて開催されました。本部、支部会員77名の出席がありました。

始めに長尾会長より、松本紘新総長の就任、東京オフィス、さらには書籍や文書の電子化など洛友会を取り巻く世の中の変化に触れられた挨拶があり、その後、木村幹事長の司会で議題の審議に入りました。

平成20年度の事業報告ならびに収支決算書(表(1)、(2))について事務局より説明があり、木村幹事長より特別会計の事務委託

の経緯について補足説明がなされた後、異議なく承認されました。続いて役員改選の議事を挟み、平成21年度の事業計画ならびに収支予算案(表(3)、表(4))について、事務局より、21年度の会報10月号を名簿情報収集のため全会員に発送することなどの説明があり、また、名簿発行について幹事

長より追加説明があった後、異議なく承認されました。役員改選については、任期満了に伴う石川順三副会長、松本慎二副会長、市原達朗副会長、大澤靖治幹事の退任と、大澤靖治副会長、向井俊典副会長、北井茂副会長の就任が承認され、吉田進幹事の退任ならびに鈴木実幹事(新事務局局長)、北野正雄幹事(現学科長)の就任が報告されました。

報告事項としては、幹事長から会費納入状況などの本部報告、前学科長の佐藤幹事より、電気系教室の現況報告がありました。

推薦会員

(平成21年7月30日承認)

- ・土居伸二教授 電気工学専攻 (阪大、平1年博)
- ・竹内光明助教 電子工学専攻 (東海大、平18年博)
- ・佐藤高史教授 通信情報システム専攻 (早稲田大、平3年修)

- ・柴田知秀助教 知能情報学専攻 (東大、平19年博)
- ・前田新一助教 システム科学専攻 (奈良先端大、平16年博)
- ・南 貴司准教授 エネルギー基礎科学専攻 (京大理学研究科、平5年博)
- ・近藤一晃助教 学術情報メディアセンター (阪大、平19年博)

支部だより

関西支部総会報告

平成21年5月24日(日)、京都大学時計台記念館国際交流ホールにおいて、関西支部総会が44名の参加を得て開催されました。また、



総会に先立ち、「高温超電導の最近の進展」と題して講演会を開催しました。講演会では、住友電気工業株式会社 岡崎徹様(昭60年卒)より、高温超電導材料ならびにアプリケーションに関する最新の技術についてお話いただき、地球温暖化問題、低炭素社会実現といった社会背景の中、電気系教室卒業の我々にとって非常に興味深い講演会となりました。

支部総会は午後5時に北井支部長のご挨拶で始まり、弘津会計幹事から平成20年度事業報告および決算報告があり、続いて平成21年度事業計画ならびに予算編成、平成21年度関西支部役員改選について審議され満場一致で承認されました。平成21年度の新役員は、

支部長 田村 和豊(昭45卒)



副支部長 上田成之助(昭47卒)
 総務幹事 渡辺 敏緒(昭55卒)
 会計幹事 花田 敏城(昭60卒)
 の各氏です。

支部総会に引き続き懇親会が開催されました。開会にあたっては、木村磐根先生にご挨拶いただき、和やかな雰囲気の中、世代を超えた懇親が行われました。懇親会中には田村和豊支部長からスピーチをいただき、今年秋の家族見学会の予定なども紹介されました。最後は関西支部恒例の「洛友会の歌」を全員で斉唱して散会となりました。

柴田俊和(平2年卒)記

東京支部総会報告

平成21年6月21日(日)、学士会館にて東京支部の総会(本部総会併催)、講演会及び懇親会を開催しました。あいにくの悪天候のため、出席予定者のうち9名が欠席となりましたが、それでも総勢77名(うち支部会員69名)と例年どおりの盛会となりました。

支部総会は菅谷総務幹事の司会により、午後2時に間宮支部長による挨拶で始まりました。間宮支部長からは、洛友会の活性化として若手参加を促進してきた成果が出てきており、中でも若手勉強会

間宮支部長



では若手が聞きたいという人を招くことで多くの参加者があり2回とも盛況だったこと、若手幹事会も勉強会と連動(同日開催)することにより、幹事の負担は大きいものの参加はしやすくなり、活動が定着化できたこと等の報告がありました。

続いて、菅谷総務幹事より平成20年度行事・活動報告「第一号議案」があり、若手勉強会では半数近くが平成卒会員であり若手の集まるきっかけとしても成功したと、一方で、残念ながら、趣味の会の「将棋会」、拡大クラス会の「東友会」がともに会員の体調面の理由から平成20年度をもって活動を休止し解散すること等が報告され、承認されました。質疑応答

の中で若手の定義に関する質問があり、菅谷総務幹事より「支部長の卒業年度以降の会員を若手と定義している。」と回答しました。

次に中原会計幹事より平成20年度決算報告および監査報告「第二号議案」があり、予算以上の繰越金をH21年度に繰り越すことができ、昨年度に引き続き健全財政を維持できたとの説明がありました。この決算内容に対し、井上監事からは適正との監査報告が行われ、決算報告および監査報告は無事承認となりました。

引き続き平成21年度の役員／評議員／幹事「第三号議案」の紹介が行われ、拍手をもって承認されました。平成21年度の新役員は、

松田新支部長



支部長 松田晃一(S43卒)、副支部長 井上英也(S44卒)、幹事 塩見正(S45卒)、総務幹事 中原智勇(H02卒)、会計幹事 鎌田照己(H03卒)、庶務幹事 堤雅基(H02卒)の6名となりました。

続いて間宮前支部長の退任の挨拶があり、これからも若手活性化を引き続き進めて欲しく、そのためには卒業時が肝心で、本部や大学側と協力して組織立った施策を考えて欲しいというお願いがありました。

ここで司会者が中原新総務幹事に交代となり、引き続きの松田新支部長の就任挨拶では、間宮前支部長の言葉を受け、若手活性化は半歩でも一歩でも進めてゆきたい、あわせて拡大クラス会もS45年以降の発足を推進してゆきたいとの抱負が語られました。

その後、平成21年度行事・活動計画「第四号議案」、および平成21年度予算計画「第五号議案」が説明され、いずれも拍手をもって承認されました。最後に、平成21年度に米寿・喜寿を迎えられた方々(米寿5名、喜寿18名)への祝辞が述べられるとともに、会場より拍手を持って祝意を表しました。

た。

以上をもって、平成21年度洛友会東京支部総会は閉会となりました。

引き続き、本部総会が行われ、続いて同会場にて講演会が開催されました。

小寺先生(京大総長室長)



講演会では、講師として京都大学総長室長の、小寺秀俊氏(S55機械工学科卒)をお迎えし、「今日の京都大学の状況とナノテクノロジーの研究に関して」と題してプレゼンテーションを頂きました。小寺氏は、京都大学工学研究科でのマイクロデバイス研究のみならず、総長室長、NEDO Program Manager」と多方面で活躍してお

り、京大の新組織体制、シラバスの作成、文系・理系を越えた全人教育の必要性、若手・女性研究者の支援など京都大学が取り組んでいる大学改革について系統的に説明していただくとともに、東京オフィスの紹介、および MEMS 技術の概要から現在研究テーマである MEMS を用いた細胞の再生という、まさにこれから国際学会で発表される予定のホットな研究テーマを紹介していただき、会場の大きな関心を集めました。

午後6時より恒例の懇親会に移りました。

長尾本部長の乾杯のご発声で始まった懇親会は、S22卒からH18卒まで、幅広い年齢層にわたる多彩な参加者の交流の場となりました。料理を囲んで会員の方々の談笑が広がる中、中原新総務幹事を進行役として、趣味の会の各幹事から活動の紹介がされ、中でも洛謠会幹事の村上様(S36卒)からは謡が披露され大いに盛り上がりました。続いて喜寿代表として魚住様(S30卒)、最年長の池上様(S22卒)からスピーチを頂きました。そして最年少の神澤様、清嶋様(H18卒)からは、洛友会を若手から盛り上げてゆきたいとの抱負が語られ、大きな歓声があ

懇親会の様子(村上洛謠会幹事)



懇親会の様子(琵琶湖周航の歌合唱)



がりました。その後、鎌田新会計幹事の音頭により、S38卒中田様のご提案で皆が肩を組みながら、恒例の「琵琶湖周航の歌」を合唱し、最後に井上新副支部長の中締めにより午後7時半に散会となりました。

〔報告〕洛友会 東京支部 総務幹事 中原 智勇(H2年電子卒)

北陸支部総会報告

平成二十一年六月六日(土)金沢市の「金城樓」において、平成二十一年度北陸支部総会を開催いたしました。本部から木村警根先生、教室から小林哲生教授をお迎えし、合計十五名が出席して行いました。

支部総会前には、例年同様、講演会を開催いたしました。今年はいただきました。脳に関する基本的な説明から始まり、血液の酸化のレベルを捉えて脳機能をイメージングする機能的磁気共鳴画像や神経細胞に流れる電流により発生する微弱な磁気信号を捉える脳磁図についてわかりやすくご説明いただきました。また、講演後の出席者の様々な質問・疑問にも丁寧にご対応いただきました。

支部総会では、冒頭、松木支部長より、開催箇所である金沢に関する印象を含めた挨拶がなされました。引き続き、木村先生よりご挨拶をいただき、その後、本部の近況等についてお話がありました。次々週に本部総会が開催され、他学科、他大学等からの大学院学生を正員とすることを含めた会則の変更や役員の改選等を提案する

予定であることや今秋に発行を予定している名簿に関して、できるだけ充実したため、掲載について協力をお願いしたい旨のご説明がありました。

次に、小林教授より電気系教室の近況についてお話がありました。冒頭、電気系の人気が低下していることに触れ、中学生への出前講演などの取り組みを始めているとのことがありました。それから、教員の方々の異動状況のほか、卒業生の進路の状況についてご説明をいただきました。

最後に、支部幹事のほうから支部近況報告、会計報告、支部役員改選に関する議案を説明し、満場一致で承認されました。

総会終了後の懇親会では、先生方や先輩・後輩、あるいは友人と



酒を酌み交わして歓談し、楽しいひと時を過ごしました。最後に琵琶湖周航の歌と逍遙の歌を合唱し、松木支部長ご発声のもと、万歳で散会となりました。

(林記)

改選された支部役員

顧問 森本芳夫(昭16)

西村尚和(昭23)

野村精二(昭24)

中島恭一(昭40)

支部長 松木純也(昭44)

副支部長 宮越政通(昭41)

評議員 金森閔治(昭40)

柴田 明(昭40院)

西念 勉(昭46)

安達正利(昭46院)

幹事 久和 進(昭47)

野村保之(昭42)

松本吉永(昭57)

(新) 中村智和(平5)

中部支部総会報告

平成21年6月20日(土)午前11時から、名古屋駅前の名鉄グランドホテルにおいて、平成21年度中部支部総会を開催しました。本部からは長尾眞会長、教室からは雨宮尚之教授にご出席いただき、支部からは2名の新入会員を含む23名の参加を得ての総会開催となりました。

議事は根石支部長の挨拶に始ま



り、前年度事業・決算報告および今年度事業計画・予算審議が行われ全員一致での承認の後、役員改選審議を行い、引き続き同じ体制で今後2年間の支部運営を行うこととなりました。

総会に引き続き、長尾会長から本部の状況報告として、松本絃先生が第25代京都大学総長に就任されたこと、本年が洛友会の名簿作成年であること等がありました。両宮教授からは、桂キャンパスへの移転状況、人の動き、卒業生の就職状況等について説明がありました。質疑応答のなかでは、博士前後期連携教育プログラムに関して企業内での博士活用状況について、また学生会員制度に関しては

大学院生の扱いや電気系学科の人氣回復について意見交換が行われた。産学の協力が益々重要になってくると感じられました。

お二人のお話の後、全員での記念写真撮影を行い、懇親会へと移行しました。酒井副支部長の乾杯発声でスタートして歓談が続いた後、大先輩および新入会員に近況報告をしていただいた。石川進先輩からは、書籍や自身の過去の洛友会報投稿を基に、健康を維持する生き方を披露していただいた。

そうこうしているうちに予定の時間が過ぎ、石川進先輩指導のもと全員で「逍遙の歌」を合唱して散会となりました。

松浦昌則(昭53年卒) 記

第91回関西支部 ゴルフ競技会報告

第91回関西支部ゴルフ競技会が平成21年5月16日(土)武庫ノ台ゴルフコースにて開催されました。

当日は曇から時折晴れ間の見える天候の中、アウトは福川氏(昭和30年卒)、インは伊藤氏(昭和34年卒)の始球式でプレーを開始し、合計26名(うちシニア11名)が競技に汗を流されました。結果は以下のとおりです。



- (シニアの部)
- 優勝 平嶋 正芳 (S38年卒)
 - 2位 森田 宏 (S34年卒)
 - 3位 福川 幸男 (S30年卒)
- (一般の部)
- 優勝 北野 徹 (S46年卒)
 - 2位 島岡 正憲 (S52年卒)
 - 3位 中村 勤 (S46年卒)
- 〔第92回競技会のご案内〕
- 平成21年10月17日(土)
- 於 武庫ノ台ゴルフコース
- 若い方も含めて、多数のご参加をお待ちしております。
- 〈連絡先〉
- 関西電力
- 三浦 良隆 (S55年卒)
 - 中居 賢男 (H14年卒)
- 050-7104-6014
nakainasao@b3.kepcoco.jp

事務局だより

事務局からのお願い

今年度は会員名簿発行の年に当たり来年3月に発送の予定です。名簿の更新をできるだけ徹底致し、たく今号は全会員の皆様お送り致しております。平成21年度版名簿作成のための基本調査票をまだお送りいただいていない会員の方には再度基本調査票を同封しております。未提出の方は可及的速やかにご送付下さいますようお願い申し上げます。11月末日をもって最終締切とさせていただきます。また、新会員名簿は会費納入者におのみお送りすることになっております。

編集後記

今号には名誉教授坂井利之先生よりご寄稿を頂きました。学生の方、「家住期」の方はご熟読いただき、是非ともこれからの人生に生かして頂きたいと思っております。

今年も四国の匿名会員からご寄付を頂きました。その篤志に心から感謝申し上げます。麻生内閣の頃、定額給付金の受給資格で論争がありました。閣僚からは、受け取る、受け取らない、明言しない、「さもない」、などの意見が出ましたが、寄付する、という選択肢はついで聞かれませんでした。高所得者は寄付を是非考えて欲しいものです。ちなみに、茨城県医師会では受け取った定額給付金を民主党に寄付しようという提言があったそうです。(事務局 記)

訃報

- 昭12 石崎 達彌 21・8・3
- 昭16 竹屋 芳夫 21・8・16
- 昭17 太田 英雄 21・6・13
- 昭17 谷村 愛道 21・8・23
- 昭24 兼本 正則 21・6・30
- 昭28 日比 正男 20・12・26
- 昭41 宇野 克彦 21・6・21

以上の方々がご逝去なさいました。謹んで哀悼の意を表します。

